

大地震に備え訓練
家具固定方法学ぶ

伊東・大室高原自治会

伊東市の大室高原自治会は12日、大地震発生に備えた防災訓練を大室高原自治会館で行った。地元住民約200人が参加し、大型家具の転倒防止対策などを学んだ。

家具を固定する訓練は、LPガス販売などを手掛ける「エネジック」が協力した。同社の社員が、L字形の金具を使って壁に固定する手法などを解説した。壁



家具の固定方法などを学んだ訓練
—伊東市の大室高原自治会館

の裏側にある柱を見つけて、テクニクも紹介した。

消火器でてんぷら鍋の油に引火した炎を消す練習や非常食の炊き

出し、ソーラー充電ラウンタンや携帯トイレなど防災グッズの展示も行った。

同自治会は毎年1回、災害発生を想定した訓練を自主的に開催している。宮嶋宏二副会長は「家具の転倒は災害時の主要な死因の一つ。参加者それぞれが防災意識を高めてほしい」と呼び掛けた。

「正しい家具固定」学ぶ

大室高原自治会・自主防が訓練

エンジン協力で転倒防止策



道具を使って壁下地のある場所を確認する参加者
＝大室高原自治会館駐車場

伊東市の大室高原自治会・自主防災会は12日、同自治会館駐車場で防災訓練を行った。住民約200人が集まり、家具転倒防止策や応急手当の実演見学、消火訓練などを通して防災意識を高めた。

家具転倒防止策の実演はガス会社エンジンとさくら住建の協力で実施した。家具転倒防止用品の紹介、建物の構造の解説に続いて、実際にし形金具で本棚を壁に固定する作業を見た。

エンジンの社員は「金具は家具の方から取り付ける」といったポイントに加え、家具を固定する対象となる壁下地の柱の位置を確認する方法を説明。参加者も下地探し用の道具を手に入れた。

認した。
地震発生時に家具の転倒が負傷の原因になることから、転倒防止策の周知を図ろうと訓練に取り入れた。中心となつて企画した自治会・自主防災会副会長の宮嶋宏一さんは「熊本地震もあり、住民が防災を身近な問題として捉え、例年以上に熱心に参加してくれた。これからも防災対策の周知や訓練を重ねていきたい」と話した。